

少雨に関する農作物等の技術対策

福島県農林水産部農業振興課

県内では、降水量の少ない状態が続いており、6月2日仙台管区气象台発表の1か月予報でも向こう1か月の降水量は、少ない確率が40%となっています。

以下の技術対策を参考に農作物や農業用水の管理に十分注意しましょう。

1 共通事項

農業用水の確保のため、地域内での話し合いや地区内を数カ所に分けて配水するなど工夫するとともに節水栽培に努めましょう。

2 水 稲

漏水を防ぐため、畦畔や水尻の点検を定期的に行いましょう。

田面が長期間水面から露出するなどにより雑草の発生を確認した場合は、適期防除に努めましょう。

3 野 菜 草勢の維持に努めましょう！

(1) 共通事項

ア かん水

マルチ内、通路等の土壤水分を適正に保つようにかん水を行いましょう。かん水は、朝夕の気温が低い時間に行いましょう。かん水チューブを用いた少量多回数のかん水が望ましい方法です。なお、畦間かん水を行う場合は、長時間水を溜めないようにしましょう。

イ 草勢の維持

草勢が弱い株は摘花を行い、負担を軽減し草勢維持に努めましょう。また、老化葉、黄化葉を中心に摘葉を行い、葉面からの蒸散抑制に努めましょう。

追肥は、液肥やペースト肥料の土壤かん注を行いましょう。

(2) 品目別栽培管理

ア 夏秋きゅうり

(ア) 側枝の摘心は、草勢が弱い場合は強く行わず、回復してから実施しましょう。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類、アブラムシ類、うどんこ病等少雨時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めましょう。

イ 夏秋トマト

(ア) 土壤乾燥や過湿等水分の急変は尻腐果や裂果の発生を招くので、畦及び通路の土壤水分を適湿に保つように少量多回数のかん水としましょう。また、尻腐果防止としてカルシウム剤の葉面散布を行いましょう。

(イ) 病害虫防除は、アザミウマ類、コナジラミ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めましょう。

ウ サヤインゲン

(ア) 株元や通路等へ薄く稲ワラを敷き、乾燥防止に努めましょう。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類、アザミウマ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害

虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めましょう。

エ 夏秋ピーマン

(ア) 草勢維持のためかん水を行いましょ。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類、アザミウマ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めましょう。

オ 夏秋ナス

(ア) 草勢維持のためかん水を行いましょ。

(イ) 病害虫防除は、ハダニ類等干ばつ時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めましょう。

カ アスパラガス

(ア) かん水は夏秋どりの収量増加や株養成中の養分蓄積に対する効果も大きいことから、畦上や通路かん水を行いましょ。

(イ) 病害虫防除は、アザミウマ類等少雨時に発生が多くなる傾向の病害虫について、その発生動向に十分注意し、適期防除に努めましょう。

4 花 き

(1) かん水

露地栽培のキク、リンドウ等では、畦間かん水等を定期的実施しましょ。

また、施設栽培では、換気を徹底するとともに、土壤水分を適湿に保つように、こまめなかん水を行うようにしましょ。

なお、かん水は日中の高温時を避けて、朝夕の涼しい時間帯に行なってください。

(2) 土壤乾燥の防止

白黒ダブルマルチや稲ワラを敷き、地温の上昇や土壤の乾燥を防ぎましょ。

(3) 葉面散布

土壤乾燥が続くと、カルシウム欠乏による葉先枯れ症状（トルコギキョウ、リンドウ、ユリ等）や鉄欠乏による葉色の退色（ユリ、リンドウ等）といった生理障害が生じやすくなります。適度なかん水を行うとともに、葉面散布剤による応急処置を実施しましょ。

(4) 病害虫防除

高温乾燥条件では、アブラムシ類やハダニ類等の害虫が発生しやすいので、発生状況をこまめに観察し、適期防除に努めましょ。

5 果 樹

少雨条件が続くと果実の肥大不良や樹勢低下（葉のしおれや落葉）などが発生しやすくなります。特に根域の浅い苗木や若木等は土壤の乾燥の影響を受けやすいので、かん水やマルチ、草刈りの実施により、土壤の水管理を徹底しましょ。

(1) かん水

乾燥が続く場合は、かん水を実施し土壤水分を確保します。かん水は、1回当たり25～30mm程度（10a当たり25t～30t）を目安とし、5～7日程度の間隔で実施しましょ。また、保水性が劣る砂質土壤などでは、1回のかん水量を少なくして間隔を短くし、回数を増やしましょ。

(2) 草刈り

草生栽培の園では、樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょ。

なお、地際部まで刈ると放射性物質をまき上げる可能性がありますので、十分注意しましょ。

(3) マルチ

刈り草や稲ワラのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(4) 害虫防除

気温が高く経過すると害虫の世代交代が早まり、増殖が助長される傾向があります。特に、ハダニ類は急増しやすいため、寄生密度を常時観察し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭以上）に達したら速やかに防除を行いましょう。

6 麦類

出穂期が平年に比べ7日～12日早まり、出穂後も高温に経過したことから成熟期は早まる見込みです。収穫作業が遅れないよう、例年より早めに収穫の作業計画を立て準備を行いましょう。

(注)「稲ワラ」は、暫定許容値以下であることを確認したものを使用してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報(生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報)をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>